

**第2部 -- 情報発信 -- 目録所在情報サービス  
(NACSIS-CAT/ILL)への参加 (特集 アジ研図書館五  
十年の足跡と未来 -- 蔵書構築・情報発信の課題)**

|     |  |
|-----|--|
| 著者  | 伊藤 えりか   |
| 権利  | Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア<br>経済研究所 / Institute of Developing<br>Economies, Japan External Trade Organization<br>(IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a> |
| 雑誌名 | アジ研ワールド・トレンド   |
| 巻   | 174  |
| ページ | 27-28  |
| 発行年 | 2010-03  |
| 出版者 | 日本貿易振興機構アジア経済研究所   |
| URL | <a href="http://doi.org/10.20561/00046486">http://doi.org/10.20561/00046486</a>  |

# 目録所在情報サービス(NACCSIS-CAT/ILL)への参加

伊藤えりか

## ●NACCSIS-CATへの参加

アジア経済研究所図書館は一九九四年にNACCSIS-CAT（総合目録データベース）に参加した。旧学術情報センター（現在の国立情報学研究所、以下NII）が文部省傘下以外の学術機関にデータベース参加の門戸を開き、参加が実現したのである。一九九五年度末に図書館トータルシステム（富士通ILISWR）を導入し、一九九六年度から本稼働した。これによって、和洋書の目録作成は効率化された。

NACCSIS-CAT参加当初は所蔵登録にとどまっていたが、徐々に途上国の希少価値のある出版物の書誌・所蔵も新規に登録するようになった。しかし、千葉市幕張地区への移転や図書館利用者の減少という環境の変化を受け、アジ研図書館は非来館型のサービスである相互貸借や文献複写サービスを充実させるため、NACCSIS-CATへの登録を積極的に行い、NACCSIS-CATやWebcatによる検索環境を整えていった。

## ●遡及入力

NACCSIS-CATで検索ができて、利用者がインターネット上のOPACで検索できなければ不便である。そのためにはOPACを公開するためのテクニカルな準備はもちろん、自館のデータベースを充実させることも重要である。図書館所蔵の蔵書の遡及入力は、図書館システム導入時から必要不可避の懸案事項だった。一九九六年度から二〇〇六年度まで、利用頻度の高いものから、カード目録や現物による遡及入力を行い、計五回、所蔵と一部の図書書誌の登録を実施した。このなかには、統計資料の書誌情報をNACCSIS-CATの目録記述文法に則って書き換える作業も含まれている。このほか、年刊・雑誌類の書誌の遡及入力は、図書館職員が直接入力作業を行った。当時、雑誌書誌の整備に応じられる遡及入力会社がなかったためである。

二〇〇八年度末までのNACCSIS-CATに所蔵登録した当館の所蔵は、図書が二四万六二五四冊、雑誌が六一六七タイトルとなっている。このうち新規にオリジナル登録した書誌の累計は、図書二〇万三九一六件（二〇〇八年度末）、雑誌三四〇七タイトル

（二〇〇七年度末）である。とくに新規書誌作成件数は遡及入力が集中的に行われた二〇〇四年度から二〇〇六年度にかけて急増し、特に二〇〇四、二〇〇六年度には三万冊を超えている。

## ●多言語資料の遡及入力

二〇〇一年度にILISwaveを導入し、これによってNIIが推進していた新共同目録システム（NACCSIS新CAT）への移行に対応する準備が整った。当館の蔵書の二〇パーセント以上を占める多言語（アジア諸語）資料の入力環境ができたのである。最初に中国語が、その後、ロシア語、アラビア語、ペルシャ語、タイ語が当用漢字や翻字形を用いない目録作成が可能となった。二〇〇三年度にNIIの多言語部門の遡及入力事業で、初めて当館の中国語とロシア語、アラビア語の資料が対象となった。割り当てられた遡及入力事業で、NACCSIS-CAT上の既存書誌のヒット率が全般的に低く、当館の蔵書が希少性の高いコレクションであることが認められたようだ。翌年からは他の言語環境も整い、事業の対象と

なる言語も対象冊数も増加した。二〇〇六年度までに、新たにベルシャ語、タイ語がNIIの遡及入力事業の対象となった。この事業により、NACSIS-CATの多言語データを充実させるとともに当館のデータも整った。当館の蔵書のうち、これまでにNIIの遡及入力事業の対象となった図書は二万五六〇〇冊にのぼる。

### ●相互貸借・文献複写サービス

当館は二〇〇二年度より図書館相互貸借データベース(NACSIS-ILL)に参加した。それまで専門図書館協議会加盟館だけだった相互貸借の対象館が広がり、同時に文献複写の受付も増加した。さらに二〇〇四年一〇月からは料金相殺システムに参加することで、相互貸借・文献複写の事務手続きが簡便になっただけでなく、依頼・受付ともに対象となる図書館が大幅に拡大した。とくに相互貸借の貸出冊数では、二〇〇六年度以降毎年のランキングで二位以内に入っている。

### ●今後の課題

当館が所蔵する発展途上国の出版物には、書誌情報が不十分なもの、表紙と表題紙でタイトルが微妙に異なるものなど、目録を取りにくいものも含まれている。これらの資料の書誌情報は当館データベースへの登録にとどまっているため、当館のOPACを検索しないと所蔵しているかわからない。

また、雑誌書誌は、遡及入力時にNACSIS-CATに書誌がなければ、所蔵しているものでも当館データベースへの登録のみで、NACSIS-CAT上に新規に雑誌書誌を作成し、所蔵登録するに至らなかった。とくに開発途上国の統計資料にこの傾向が強い。NACSIS-CATでは雑誌書誌の登録に必ず情報源を要求される。これは書誌の質を一定に維持するために必要である。しかし、タイトル変遷を頻繁に繰り返す開発途上国の雑誌書誌の新規登録は、業務量が膨大なものとなるため着手できなかった。NACSIS-CAT上には後から作成された書誌を確認するメンテナンス作業も実施できないのが実情である。

NACSIS-CATの雑誌データベースは、日本と先進国の出版情報に充実しているが、外国、とくに開発途上国の雑誌や年刊類は所蔵館が少ないこともあり、ややヒット率が低い。年刊の場合は図書館の方針で図書書誌を選択できるのでそれも考慮し、検索する際に注意が必要である。雑誌書誌の充実には、NACSIS-CATがより充実したデータベースとなるための課題でもあろう。当館では、NACSIS-CAT上で検索できる雑誌には最新の所蔵情報を登録したいと考え、一括所蔵の更新を毎日行っている。もうひとつの問題として、NACSIS-CAT上で電子ジャーナルの書誌、所蔵の登録が進んでおらず、所在情報の共有化が難しいことがあげられる。冊子体の雑誌と

同じ業務の流れが有効でないことと、電子ジャーナル(電子ブックも含む)について、目録データベースから離れた有効な管理方法が確立されていないためである。その結果、契約上はILLの複写依頼に対応することが可能でも、契約電子ジャーナルの情報を外部に公開する手段がなく、十分に生かせない状況が発生した。これに対応する方法として、多くの図書館でリンクリゾルバを導入している。

このような状況にはNIIも注目し、『電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験 平成二〇年度報告書』(国立情報学研究所/二〇〇九)に、実証の実験結果と具体的対応策が報告されている。また、目録システムの在り方を検討するワーキンググループを結成し、『次世代目録所在サービスの在り方について(最終報告)』(国立情報学研究所学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会(次世代目録ワーキンググループ)/二〇〇九)に提言をまとめている。

当館では、今年度購読している電子ジャーナルの情報の更新作業を手作業で実施した。しかし、契約タイトルも増加傾向にある。リンクリゾルバを導入し、利用者サービスを充実させ、同時に作業を効率化することが目下の課題である。

(いとう えりか/アジア経済研究所 図書館)